



東証スタンダード：3131

# 2024年度 第3四半期決算説明資料

2025年2月10日

# 1. 業績まとめ（2024年度 Q3）

## ◇販売面 ⇒ 2.0%増収

- ✓半導体製品分野は、一部のメモリ関連商材の販売が伸びたため14.1%増収。
- ✓ディスプレイ分野は、前年の主要顧客の民事再生によるビジネス終息のリカバリーへの取組が奏功し、59.4%増収。
- ✓システム製品分野は、EMSビジネスにおける前年度の増産の一時的な反動減と、単発的なAIサーバ機器ビジネスの剥落が主な要因となり、53.0%減収。
- ✓バッテリー&電力機器分野は、主力の家庭用蓄電システム向けビジネスが堅調に推移し、その他のバッテリービジネスの販売が伸長したことで、38.8%増収。



システム製品分野の不調を、半導体製品分野及びディスプレイ分野における汎用品のボリュームビジネスの伸長により、売上高は増収となった。

## ◇利益面 ⇒ 営業利益は6.8%減益なるも、経常利益は12.0%増益

- ✓売上総利益：半導体製品分野及びディスプレイ分野の増収があるものの、比較的利益率の高いシステム製品分野の一時的な反動減と、為替相場の変動による原価率の上昇で、18.6%減益。
- ✓営業利益：前年度の主要取引先の民事再生に伴う貸倒引当金繰入額の圧縮による販売管理費の減少があるものの、売上総利益の減益が上回り、6.8%減益。
- ✓経常損益：支払利息の増加があるも、Q3末時点で外貨建て負債に対する外貨建て資産の超過額が大きくなったところに、ドル円の為替相場が円安になり為替差益を計上、一転して12.0%増益。



## 2. 今後の見通し：厳しい事業環境の継続

### ◇2024年度 ▶ 業績予想の修正（各利益指標の下方修正）

【当初予想】 = 下期より市場環境の回復を見込んで、上期スロースタート・下期回復と想定した。

【事業環境】 = 一部では回復基調にあるものの、総じて市場の回復は遅れ、継続見込みと判明。

【修正概要】 = 利益面で当初の想定を下回る見通しとなった。

売上高	システム製品分野の減少を半導体製品分野及びディスプレイ分野でリカバリー。	変更なし
営業利益	販売管理費は概ね想定どおり。比較的利益率の高いシステム製品分野の減収見込みが、売上総利益の押し下げ要因となったため。	▲450百万円、▲26.5%
経常利益 及び 親会社株主に 帰属する 当期純利益	Q3末時点で為替差益を計上するも、営業利益の減益が上回る見込み。	経常利益 ▲430百万円、▲34.4% 親会社株主に帰属する当期純利益 ▲320百万円、▲37.6%

### ◇2024年度配当予想 ▶ 現段階で据置く

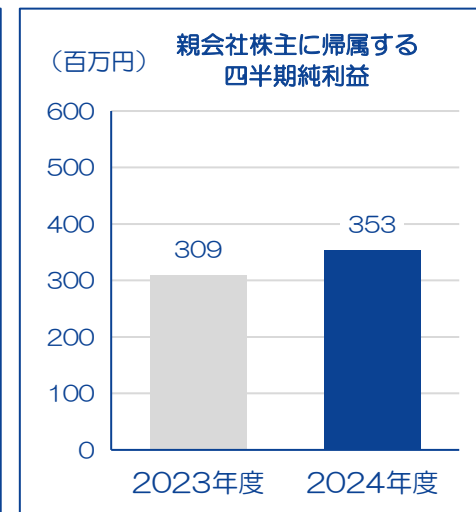
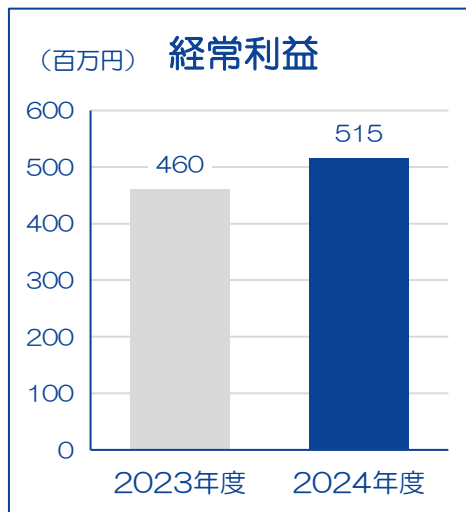
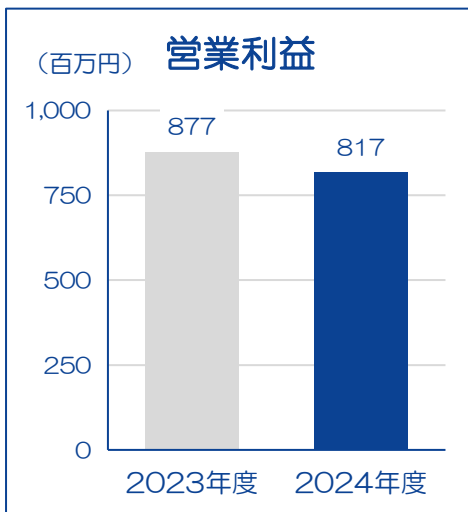
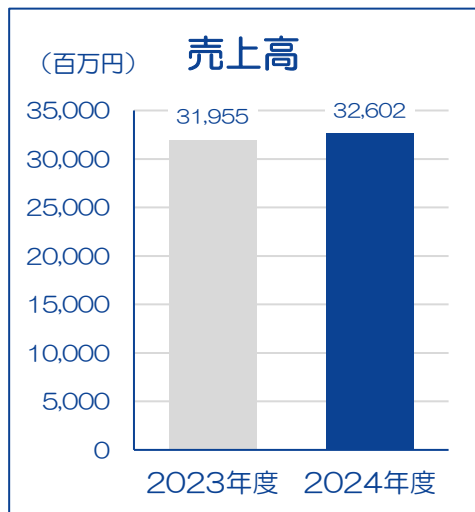
当連結会計年度の確定した数値を基に、安定的な配当を意識しつつ、総合的に判断したうえで、改めてお知らせ申し上げます。

### ◇2025年度中期経営目標 ▶ 達成可能性を、現在鋭意精査中

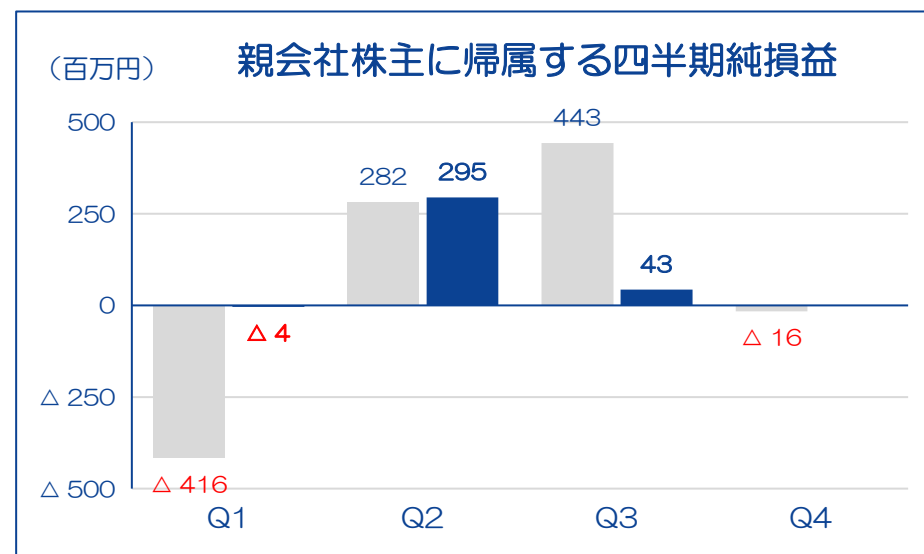
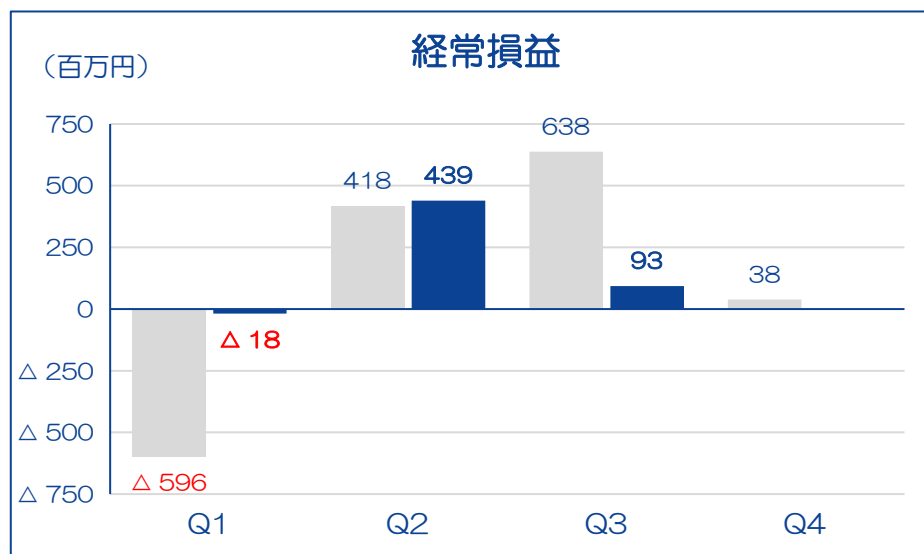
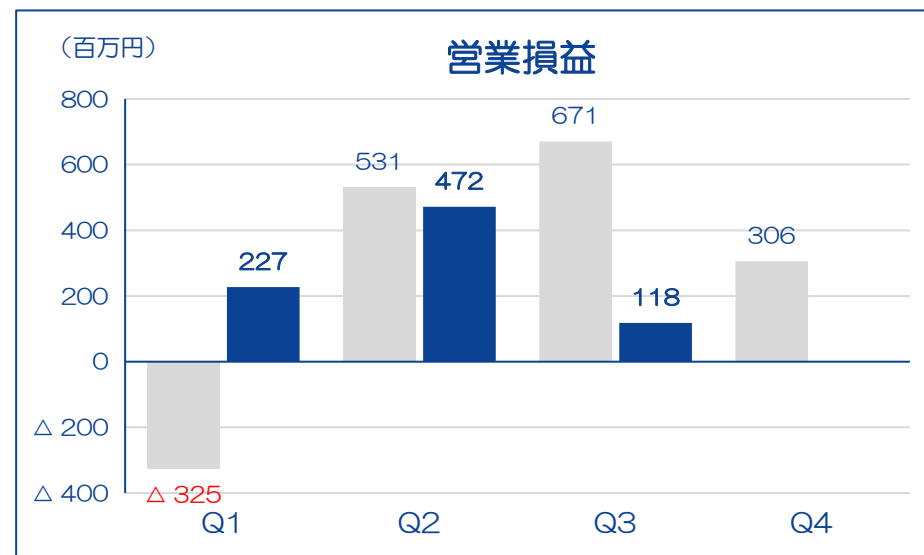
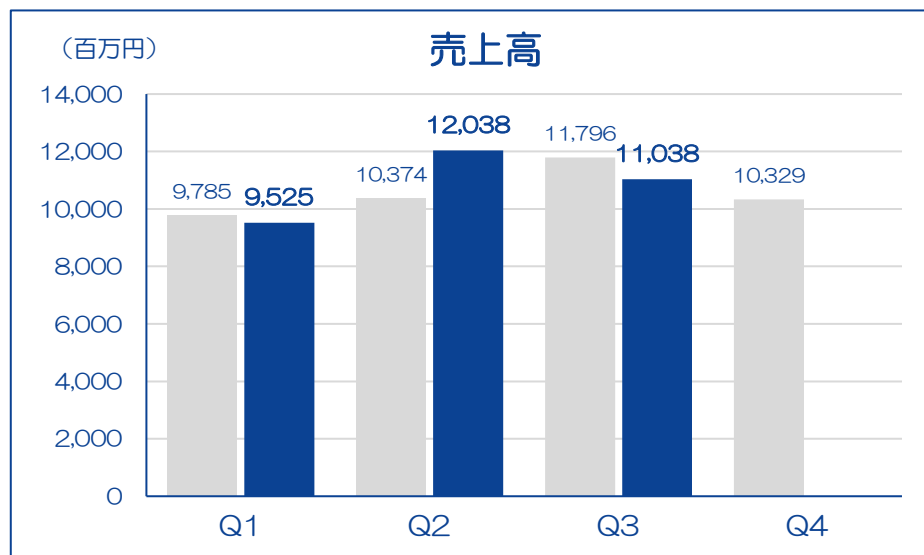
既存ビジネスの厳しい市場環境の先行き分析の他、新規ビジネスの進捗を含めて、現在鋭意精査中となります。開示すべき事項が判明した場合、速やかにお知らせします。

# 3. 業績サマリ (2024年度 Q3累計)

金額単位：百万円	前年度Q3実績 (2023年度)	当年度Q3実績 (2024年度)	増減額	増減率
売上高	31,955	32,602	+646	+2.0%
営業利益	877	817	▲59	▲6.8%
経常利益	460	515	+55	+12.0%
親会社株主に帰属 する四半期純利益	309	353	+43	+14.1%



# 4. 四半期別業績（前年四半期別対比）

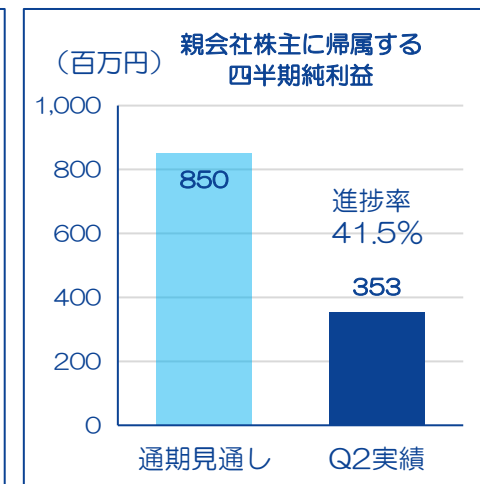
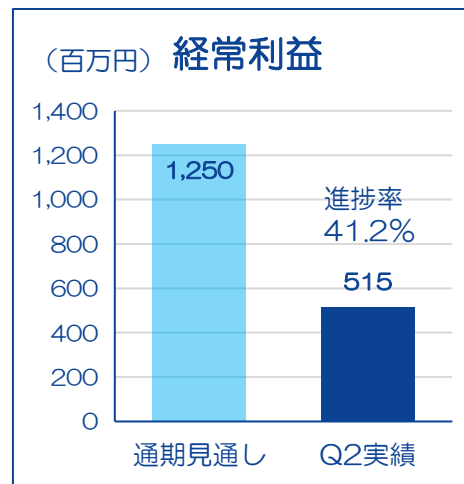
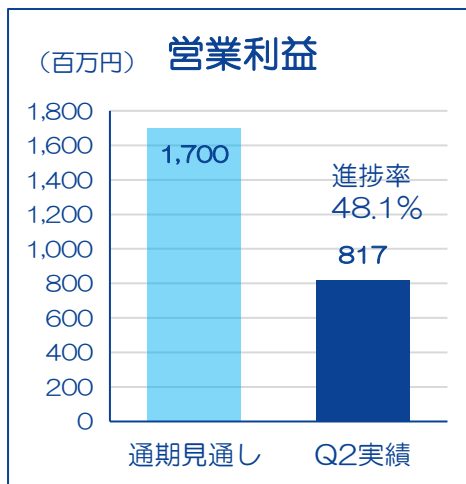
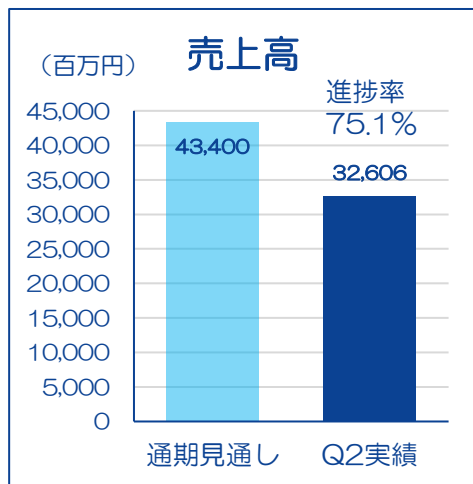


凡例：  2023年度  2024年度

# 5. 通期見通し進捗状況（2024年度Q3）

下期より市場の回復を見込むも、足元で回復が遅れている。▶ 2024年5月10日公表の通期業績予想に修正あり。

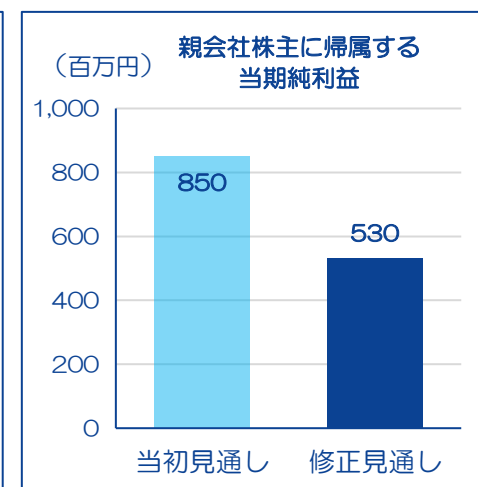
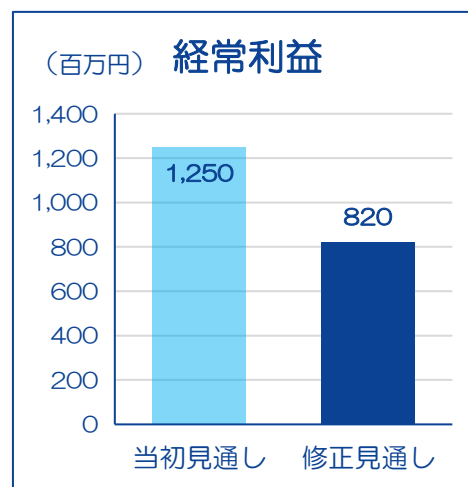
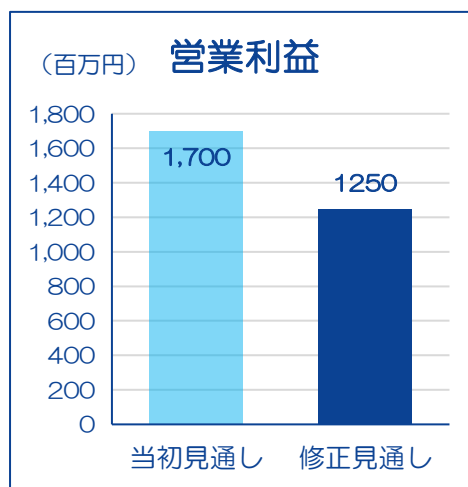
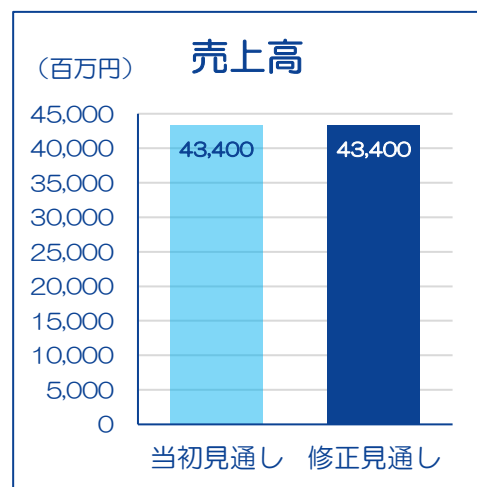
金額単位：百万円	通期見通し：当初値 (2024年度)	Q3実績 (2024年度)	進捗率
売上高	43,400	32,602	75.1%
営業利益	1,700	817	48.1%
経常利益	1,250	515	41.2%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	850	353	41.5%





## 6. 通期業績予想の修正

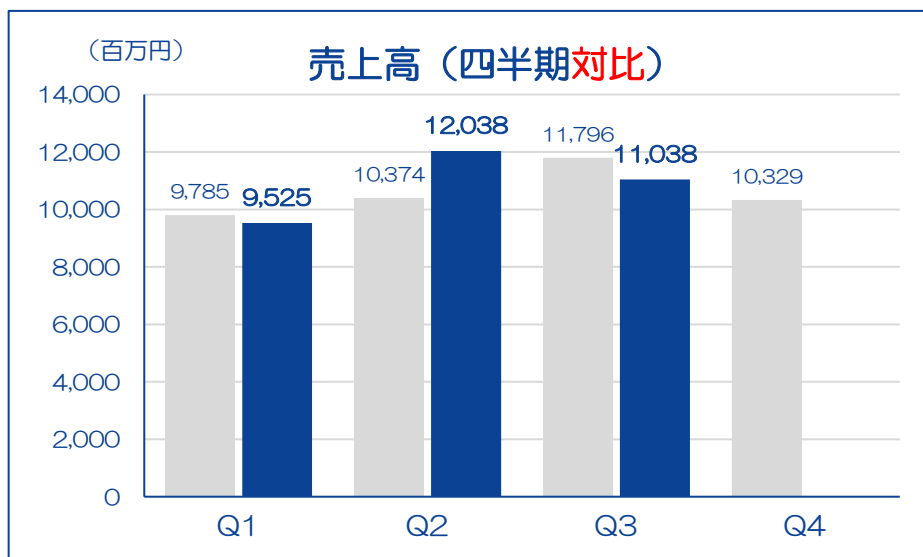
金額単位：百万円	当初の業績見通し (2024/5/10)	修正業績見通し (2025/2/10)	増減	増減率
売上高	43,400	43,400	変更なし	
営業利益	1,700	1,250	▲450	▲26.5%
経常利益	1,250	820	▲430	▲34.4%
親会社株主に帰属 する当期純利益	850	530	▲320	▲37.6%



- ✓ 修正理由の要約はP3、詳細は2025年2月10日公表の「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照。
- ✓ 配当予想は現段階で据え置く。  
2024年度の確定数値を基に安定的な配当を意識しつつ、総合的に判断し、改めてお知らせいたします。

# 7. 販売状況（四半期別の売上高推移）

5ページの四半期毎の売上高対比表を時間軸で並べ替えると・・・



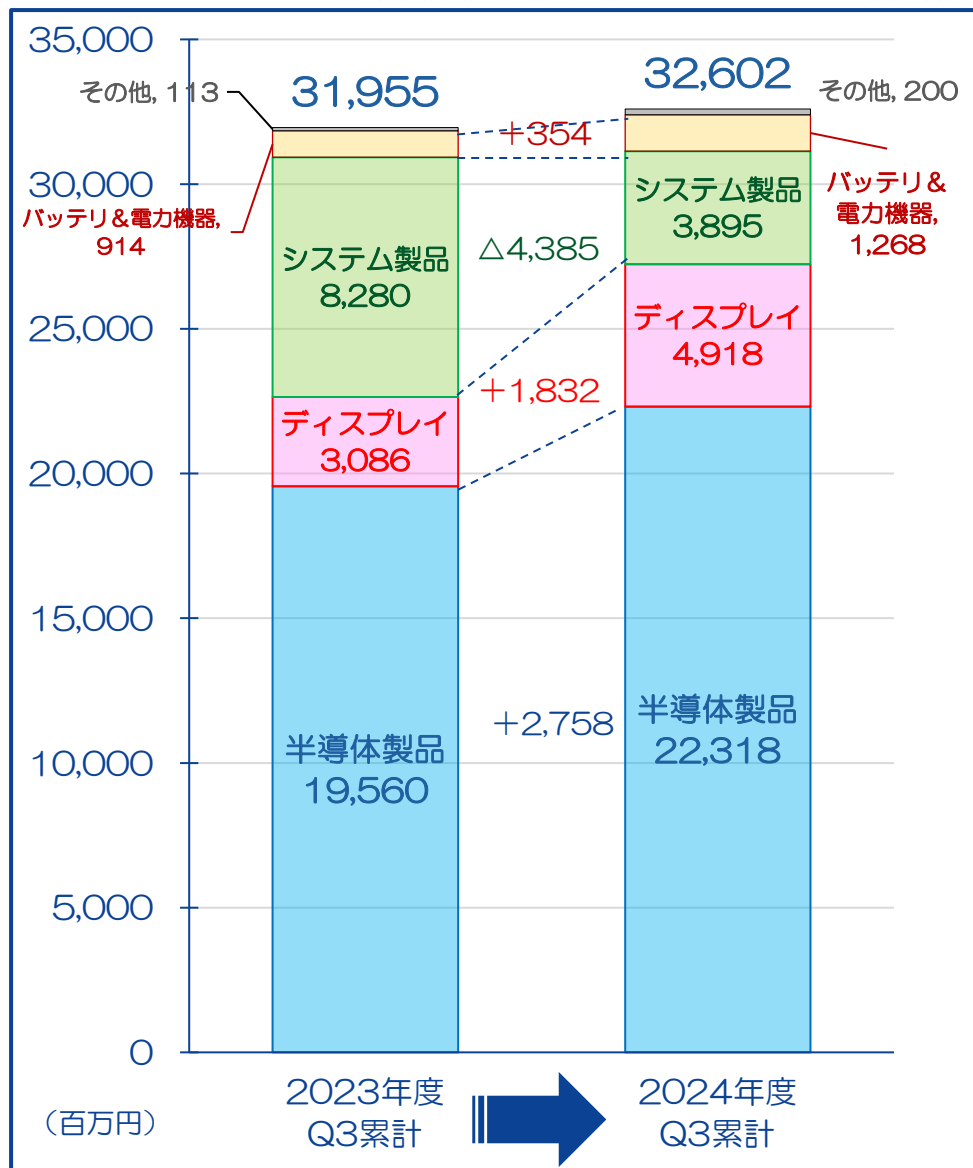
凡例： 2023年度 2024年度



2024/Q3は半導体製品・ディスプレイの両分野の汎用品ボリュームビジネスが増加するも、システム製品分野が減収。

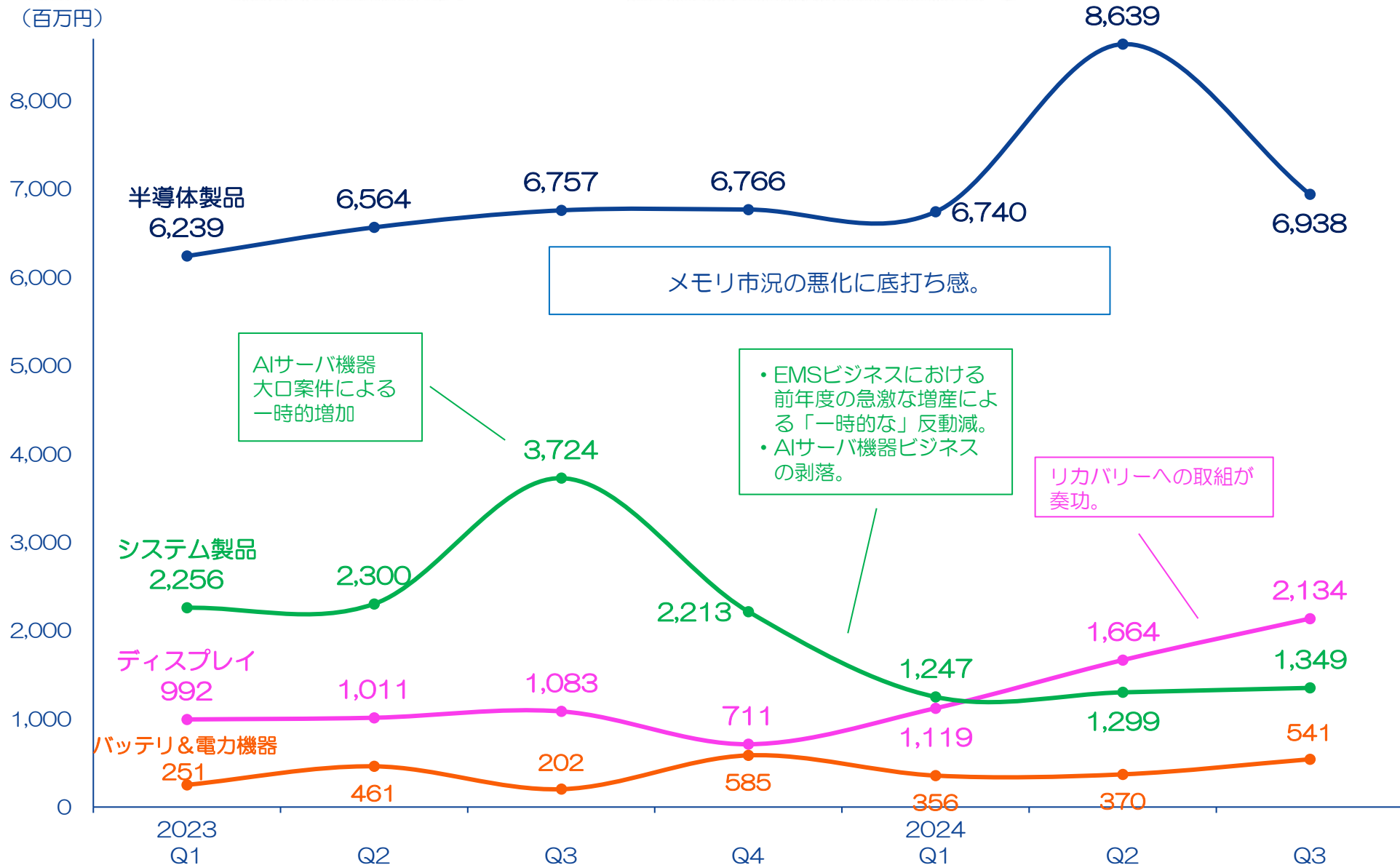


# 8. 販売状況（分野別売上高：前Q3対比）



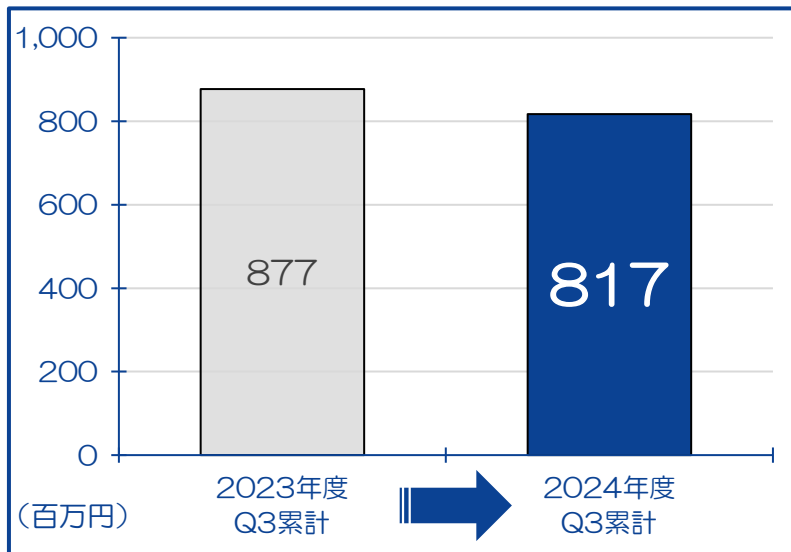
品目別	増減%	状況
半導体製品	+14.1%	メモリ市況の回復を背景とした各種メモリ関連商材の販売が伸長したため。
ディスプレイ	+59.4%	前年度の主要顧客の民事再生によるビジネス終息のリカバリー策が奏功したことで、PC向け液晶モジュールの販売が伸長したため。
システム製品	▲53.0%	EMSビジネスにおける前年度の増産の一時的な反動減と、単発的なAIサーバ機器ビジネスの剥落が主な要因となったため。
バッテリー&電力機器	+38.8%	主力の家庭用蓄電システム向けリチウムイオンバッテリービジネスが堅調に推移し、その他のバッテリービジネスの販売が伸長したため。

# 9. 販売状況（四半期別分野別売上高推移）



# 10. 利益の状況（営業利益・経常利益）

## 営業利益



▲59百万円、▲6.8%

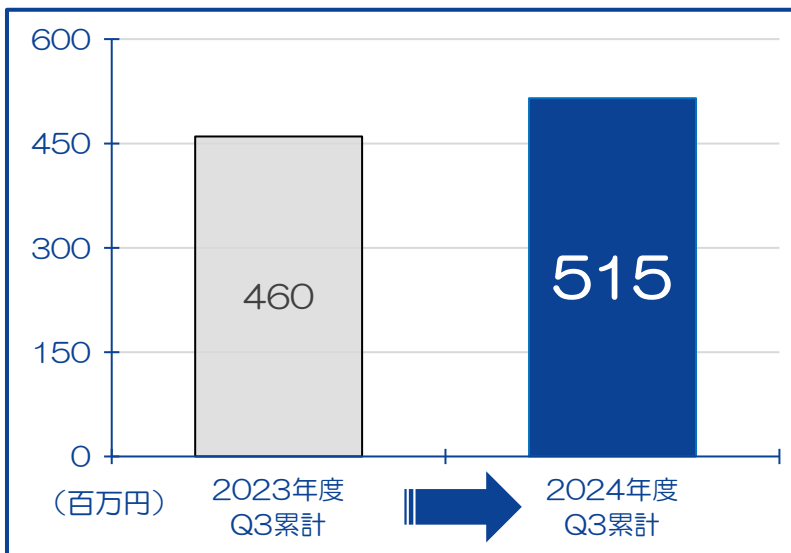
### ✓ 売上総利益

売上高は総じて2%の増収なるも、比較的利益率の高いシステム製品分野の減収と為替変動による原価率の上昇により、▲590百万円、▲18.6%

### ✓ 販売費及び一般管理費

前年度計上の貸倒引当金の圧縮が主な減少要因となり、▲530百万円、▲23.1%  
概ね想定どおりの推移。

## 経常利益



+55百万円、+12.0%

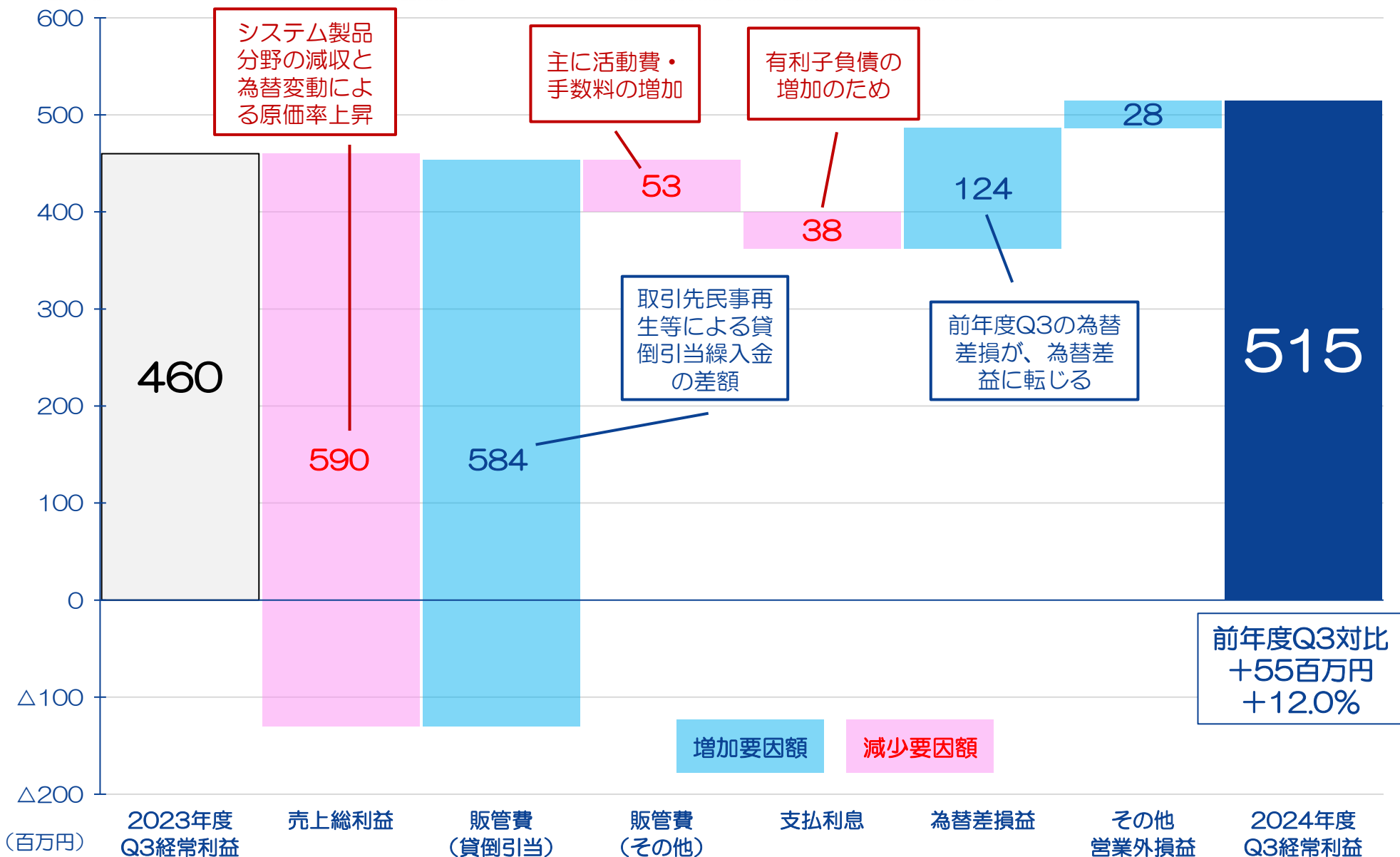
### ✓ 為替差損益

Q3末時点で、外貨建て負債に対する外貨建て資産の超過額が一時的に大きくなったところに、ドル円の為替相場が円安になり為替差益を計上。前年Q3は63百万円の為替差損が、当年Q3は60百万円の為替差益に転じる。

### ✓ 支払利息

一部のメモリビジネスの増加に伴い有利子負債が増加し、+38百万円、+11.2%

# 11. 利益増減チャート（経常損益基準）



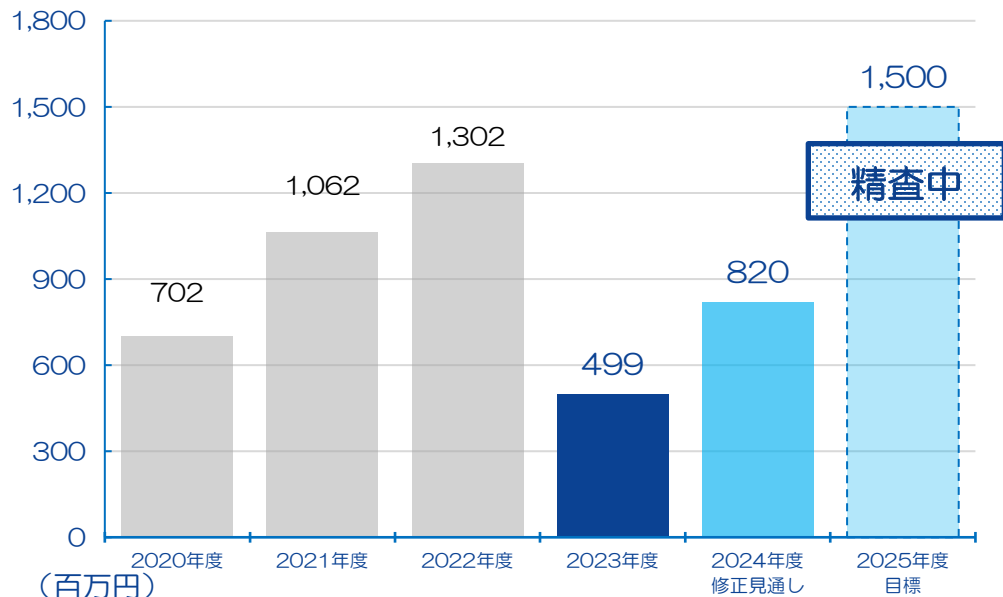


# 12. 中期経営目標は現在鋭意精査中

次期中期経営期間における販売戦略は、推進中の「収益構造改革」の基本構造を踏襲しつつ、経営基盤戦略を充実させ、下記の中期経営目標の達成に向けて邁進します。

## 目標① 2025年度連結経常利益 15億円

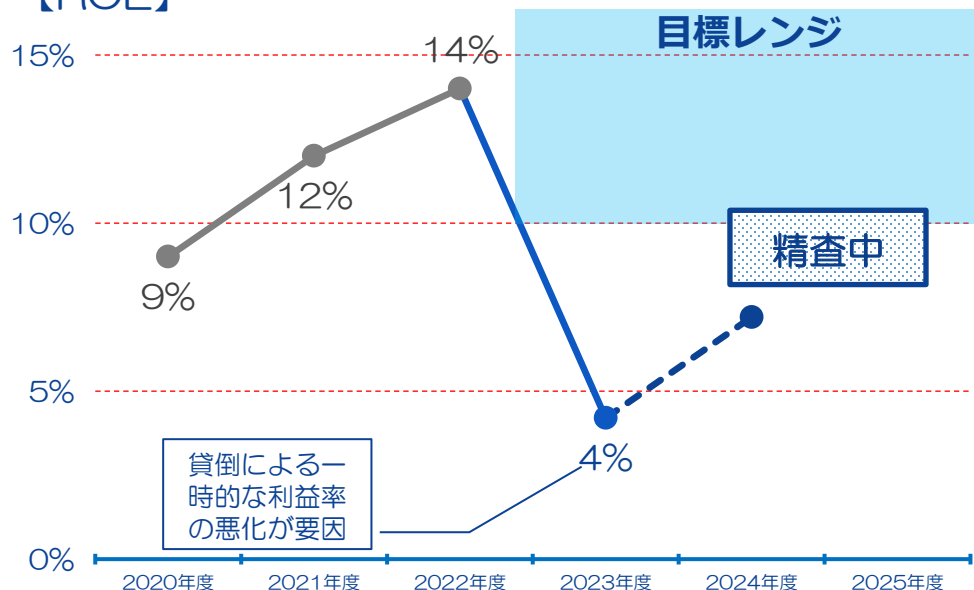
【経常利益】



## 目標② ROE (※) 自己資本利益率 10%以上を継続する。

ROE=当期純利益÷自己資本×100

【ROE】



本資料は、シンデン・ハイテックス株式会社（以下、当社）の事業及び業界動向に加えて、当社による現在の予定、推定、見込みまたは予想に基づいた将来の展望についても言及しています。

これらの将来の展望に関する表明は、様々なリスクや不確実性がつきまっています。すでに知られたもしくは知られていないリスク、不確実性、その他の要因が、将来の展望に対する表明に含まれる事柄と異なる結果を引き起こさないとも限りません。

本資料における将来の展望に関する表明は、2025年2月10日現在において、利用可能な情報に基づいて、当社によりなされたものであり、将来の展望に対する表明、予想に関しては、必ずしも実現することをお約束することはできず、結果は将来の展望と著しく異なることもあり得ますことをご承知おきください。

本資料に関するお問い合わせ先

シンデン・ハイテックス株式会社  
経営企画室

フリーコール：0800-5000-345